

子実トウモロコシの安定栽培実証

要約

子実トウモロコシの早期播種(4月播種)の収量は850kg/10aで、同年の麦あとと播種の341kg/10a及び前年の麦あとと播種の632kg/10aを上回った。下都賀管内の同様に取り組んだ農家についても早期播種で高収量を得られた。

○ 展示のねらい

近年、輸入とうもろこしの価格が高騰している中、子実トウモロコシを中心とした国産濃厚飼料生産拡大が求められている。また、米価が不安定のため、水田における子実トウモロコシ生産に注目が集まっている。そのため、下都賀地域では、令和4年度から「下都賀地域子実用トウモロコシ生産・利用研究会」(以下、研究会)が発足し、子実トウモロコシ生産に取り組んでいるが、麦あとと播種のための1年目は十分に収量確保ができなかったため、早期播種及び栽培管理の徹底により収量の安定化を図る。

○ 主な成果



写真1 絹抽出期5日後(7月6日)



写真2 汎用コンバインによる収穫作業

区	播種時期	収穫時期	絹糸抽出期	収量(kg/10a) (水分15%換算)	備考
試験区	4月19日	9月11日	7月1日	850	害虫被害ほとんどなし
対照区	7月5日	11月2日	8月20日	341	害虫による食害あり

○ 今後の方向性

安定した収量を確保するために、早期播種(4月播種)を基本とし、①播種密度の確保、②ドローン等による効果的な害虫の防除、③ほ場の選定(湿害にも干害にも対応できるよう、牛ふん堆肥等を施用した排水性かつ保水性の高いほ場)に留意する必要がある。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：栃木市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315